

それでは7番池田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、7番池田大生の市政事務に対する一般質問を始めさせていただきます。

大きく2点。農政と教育について通告を出させていただいております。よろしくお願いいたします。まずもって、今年は異常とも言える気象状況の中、日本各地で台風や大雨、集中豪雨による被害が多く見られます。被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

初めに農政についてですが、私は農業者ではありませんがいろんな方々と話をさせていただく中で、あんな百姓はしたことなかろうだい、ばってんばい、こいからは農業のことも、ちいと勉強せんぎいかんばい、と言われます。そういうことで、今回私なりに勉強をさせていただくつもりで質問をさせていただきます。冒頭に申し上げましたが、今年の異常な気象の中で記憶にないような長雨が続き、新聞などにも載っておりますが、佐賀県の農業においても日照不足によるいもち病の発生が平年及び前年より多いとの発表がなされております。昨年度は西日本を中心にトビイロウンカの害虫被害が発生しました。2年続けての被害が予測されますが、まず今年のトビイロウンカによる被害状況と被害を受けての対策をどうされたのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

山下営業部理事

○山下営業部理事〔登壇〕

おはようございます。御質問のウンカによる被害状況でございますが、武雄市の昨年の平成25年度の被害状況につきましては、被害状況調査によりますと被害面積、全水稻面積の約5%に当たる70ヘクタールでございました。被害金額に換算をいたしますと7,200万ということでございます。

今年度の対策でございますが、ウンカは高温で乾燥を好み増殖をする生態でございます。本年は繁殖がしにくい気象条件となっております。8月末における調査では県内の寄生株率は1.8%で平年の6.8%を下回っております。発生が少ない状況ではございますが、本市は前年の被害を受けまして佐賀県農業技術防除センターや関係各者の指導によりまして、田植え前の防除剤、また無人ヘリを使用する散布材をウンカ防除に適合したのを使った防除対策を行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

25年度は5%、70ヘクタール。金額にいたしまして7,200万との被害があったというこ

とで、今年度はそれを受けて防除センター等の指導を受け、対策に努めてこられたということでもあります。ウンカが高温による発生ということで、田植え前の防除等の指導や農家の方も対策に努めてこられました。今年度は低温と長雨によるいもち病の発生が予測されております。1993年、平成5年ですね、約20年ぶりのいもち病の発生が予測されておりますが、県のほうでは警報まで発令されているようですが、いもち病とはどのような気象状況で発生し、どのような影響があるのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

山下営業部理事

○山下営業部理事〔登壇〕

いもち病についてでございますけれども、いもち病につきましては日照不足による低温条件下において、稲に稲いもち病菌というカビの一種が発生する病気でございます。病原菌の適温が約25度前後で病斑が成長いたします。それに水滴、まあ雨水が伴いますと発生を助けるということになります。

ここに、いもちにかかった水稻を持ってきておりますので、簡単に御説明をしたいと思います。一応2パターン持ってきておまして、これは小さいほうでございますが、これはどちらも夢しずくでございます。この小さいほうはですね、山間部で発生をいたしておまして、早い時期にもう既にこう、いもち病が発生をして、まあ光合成がうまくいかずに成長障害を起こしたと。穂はですね、今この下のほうにあります。これは、実にならんというようなことになります。次にこの大きいほうですけども、これも夢しずくでございますが、穂がよく出そろっているという状況でございますが、これをちょっと1本。この稲のですね最上位、一番上の葉っぱですけども、これを止葉と言います。ここが一番大事なんですけども、ここにいもちが発生をいたしますと、この手前ですね、ここが首と言いますけども、その上がここの部分が枝梗と言います。ここにこの病原菌がですね、風でぺたぺたぺた雨でこうひつつくわけですね。これでもう、ここにカビがつくということでございます。ここの首の部分がもうこう黒くなってますけども、これが穂首と言います。ここの一番上が枝梗……（発言する者あり）すみません。（笑い声）これ枝梗いもちと言います。この後黒くなってですね、後は白穂になって、実がとれんと、そういうことでございます。この止葉まで来ないようにですね、防除を行ったところでございますけども、まあこういう状況になっているということでございます。

この発育によって、いろんないもちの名前があるということでございます。特に、この穂いもちが感染をいたしますと実にならないということで、収穫業において大きな影響を及ぼすということになります。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

葉いもちと穂いもちとあるということで、実物まで示していただきましてありがとう……後からちょっとよう見させてください。

それで、日照不足ということで発生するというごさいますけれども、それですよ、現時点での状況をどのくらい把握されているのかをお尋ねしてよろしいでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

山下営業部理事

○山下営業部理事〔登壇〕

被害状況でございますが、7月から8月にかけて日照時間が平年の40%。長雨が続きまして、平均気温も平年を下回ったということでございまして、県内でいもち病の多発がしております。県内の発生株数ですけれども36.5%。平年の5.6から前年の8.6を上回っております。一応、農業技術向上センターから8月20日に病虫害発生予察警報が発表されておまして、生産者の皆さんに対して徹底した防除を呼びかけているという状況でございます。

武雄市内でございますが、武雄市内についてはほぼ全域において、いもちが発生しているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

数字に、平均からしても発生が上回っているということで、7月から8月ということは、葉いもちが発生が見られた時点ということでございましてけれども、これから収穫期に入るわけですが、なかなかですね、9月に入ってもあまり天候のほうは芳しくなくですね、やっと晴れマークが続き出したという現状でございますけれども、今後どのような注意と言いますかですね、対策と指導がされるのかをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

山下営業部理事

○山下営業部理事〔登壇〕

対策についてでございますけれども、いもち病を含めた病虫害については佐賀県農業技術向上センター、杵島農業改良普及センターから情報が発信をされておまして、これから夢しずく、ヒノヒカリ、さがびより、それでヒヨクモチと収穫時期が移ってまいります。それぞれの防除時期、防除方法について、農協を通して生産者の皆さんに承諾されるところであります。

対策といたしましては、適時適切なヘリ防除を意識をいたしまして、発生程度の大きい圃場に防除を強化するという対策が講じられております。そのほかに、今回の長雨の影響によ

りまして大豆に成長格差が出ております。冠水、また排水の悪さ、雨による中耕や培土の管理不足ということで生育に差が出ておりまして、収量が低下するという懸念がございます。米・麦・大豆は、本市農業の基幹作物でございまして、大豆につきましても関係機関と連携をいたしまして対策を講じることにいたしております。

以上でございます。(発言する者あり)(笑い声)

〔市長「私語は慎んでください」〕

○議長(杉原豊喜君)

7番池田議員

○7番(池田大生君)〔登壇〕

米だけでなく、ほかの作物にも若干影響があるかもしれないということでしたが、1993年当時はですね、平成の米騒動と言われ米の作況指数が全国平均で74、佐賀は77でしたが、この大凶作でですね、米も緊急輸入をすることになりました。まあ備蓄米等の関係もありましたが、当時私のところも米屋を営んでおりましたが、輸入米の対応に追われ大変でですね、一時はその輸入米すら数量限定の入荷でした。その当時はですね、やっぱり日本の米がうまかと思った年でもありました。またですね、米泥棒なども出現したので被害対策はもとよりですね、収穫後の管理についても注意を喚起していただくことをお願いいたします。

次に行きます。中間管理事業についてお尋ねしていきます。10年後も安定的で力強い日本農業を目指し、今年度より中間管理事業がスタートしたわけですが、平成22年から行われている、人・農地プランとの関連と申しますか、整合性についてお尋ねいたします。

○議長(杉原豊喜君)

山下営業部理事

○山下営業部理事〔登壇〕

農地中間管理事業でございますけれども、農業をやめる方の農地をどのように守るかということでございます。その農地をですね、農業の中心となる経営体または大規模経営農家、認定農業者、集落営農法人に農地を蓄積する事業でございます。人・農地プランにつきましては平成24年に計画をつくりまして、5年後、10年後の地域農業の方向性を示すものでございます。

どう関連するかということでございますが、要は計画を実現するための方策が農地中間管理事業ということで御理解をいただけたらと思います。

以上でございます。

○議長(杉原豊喜君)

7番池田議員

○7番(池田大生君)〔登壇〕

農地を守るための事業ということで、人・農地プランがベースで中間管理事業が実際移し

ていくということですね、はい。実際ですね、事業が始まったばかりということですが、今年度から始まった事業の中で時間がない中での周知や推進活動をどのようにされたのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

山下営業部理事

○山下営業部理事〔登壇〕

推進事業でございますが、本年7月に全国で事業開始をされました。市報の7月号、また各地域で開催しました集落営農発展研修会、また農協が開催しております夏季座談会で説明を行っております。そのほか県の広報、農協の広報、また普及センターで開催をされました集団営農リーダー研修会等でも事業の説明を行っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

7月の広報と各地域における座談会、リーダー研修等、いろんな方面で周知活動・推進活動をされてきたということではありますが、7月にですね、最初の公募があったということですが、現在の公募状況についてお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

山下営業部理事

○山下営業部理事〔登壇〕

7月期の応募状況といたしまして、農地の貸し借り希望者が3件ございます。農地面積といたしまして、14.5ヘクタールでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

7月の公募時点で3件、14.5ヘクタールということで、事業が始まったばかりで周知活動等も若干難しかった面もあったのかなという部分もありますし、その理解ですね、その辺がどうなのかなということも考えられますけれども、今度11月に次回の公募がありますが、この7月の状況を踏まえて今後どのように周知を徹底されるのかお考えをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

山下営業部理事

○山下営業部理事〔登壇〕

次回の公募でございますが、11月に行う予定にしております。同じく市報、また市のホームページ、県・農協の広報誌を活用いたしましてお知らせをすることにいたしております。

あと詳しい事業内容については農林課、農業委員会、また北方・山内両支所のまちづくり

課が窓口となっております。御相談をいただければと思っております。よろしくお願ひいたします。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

11 月に向けてホームページ等を活用した周知活動と、また山内・北方、また本所の農林課のほうに御相談をということで、また今後ですね、推進活動を活発にさせていただきですね、事業を推進していただければと思います。この制度については、いろんな優遇制度とか協力金等の制度があるということですよね。そういうものを有効活用していただいてですね、農地の集積・集約が効率のよい農業と農業者の所得向上につながるように推進活動を進めていただくことをお願いします。

また、日本の農業は農業改革の提案などにより新たな局面を迎えるかもしれません。この武雄市の中にも大規模農家等と違ってですね、家族経営をされている方もたくさんいらっしゃいます。そういう方々ですね、所得向上等につながるように私もですね、勉強して農家の方に届けられるように頑張っていきたいと思っておりますので、今後とも御指導のほうをお願いいたします。

次に教育についてですが、今日、武雄市は教育改革ということで全国的にさらに注目をされています。社会のグローバル化や情報化が進む中で、国際社会で生き抜く力の育成が必要と言われております。この武雄市の中でもですね、その一つであるタブレットを全小学生に貸与配付しての ICT 推進事業ですが、今後は電子黒板等の電子機器との連動がさらに進んでいくと思ひ、現在の設置状況をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上教育部長

○溝上教育部長〔登壇〕

おはようございます。

電子黒板の設置状況でございますけれども、市内小中学校合わせまして普通教室が 177 教室ございます。8 月末現在で、現在そのうち 150 台設置をしております、率で言いますと 85% の整備というふうになっております。これにつきましては、来年度、27 年度までには 100% の整備を予定しております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

85% の設置状況ということで、来年度は 100% を目指すということですね。私はですね、このような ICT 機器に関してはちょっと不慣れなところがあるですね、あまり詳しくはな

いんですが、今後ですね、電子黒板等こういうものですね、本当に連動して教育につながっていくんじゃないかなと私自身も思っております。

6月議会でも出ておりましたが、タブレットを活用した学習の中でいろんな——6月のときはですね、体育の体操の様子とかそういうものを撮ったり、そういう活用をしたという事例も発表がありました。5月から始まった中ですね、また新たな活用の仕方とかですね、今後の可能性としてこがん使い方もあったばい、というとのああぎですね、また新たなものがあればお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今お話にありましたように、体育の自分の、例えばマット運動を動画で撮ってもらって、それを様子を見るというのは自分の運動を客観的に見れるということで非常に効果が出ると、カメラ機能、動画機能などを有効に活用したものであります。それから、またカメラがついているということで、野外の体験的な活動で撮影して見つけてくると。あるいは、自分の撮影したものをもとにして作文にしてみたりというようなカメラ機能を生かした活用がたくさん見られております。したがって、そういう生活科であったり社会科であったり、外に持ち出しができるという非常に授業の内容が変わってきていると。そして、先生方がさまざまに工夫してもらっているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

野外活動等、カメラ機能を使ってされていると。先日、青空教室の公開のときに行ったときにもですね、こんなことにも使えるんだと。1人1台ずつ持つんじゃなくて、グループで1台持ってみんなで活動をするというものに関して、私も新鮮なものを感じたところでございます。先生方もいろんな工夫をされ、このタブレットを活用した授業がですね、順調に進んでいるのかと思いますけれども。

次にですね、スマイル学習について。5月から全小学校で本格的に取り組んでこられましたが、きのうも課題もあったって思うとですけど、きのう出た分以外ですね、まあ例えば子どもたち以外の部分で、こう例えば遅れが見られたとか進み方に戸惑いがあったとかですね、そういうものがあれば振り返ってみていかがだったのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

スマイル学習につきましては、タブレットを1人1台持つというのはこんなに違うものな

のかということがあるわけですが、その一つが武雄市の場合にはタブレットを持たせると同時にスマイル学習を一つの方策として用いるということでのメリット。そして今お話ししましたように、学習のいろんな場面でタブレットが活用できるということ。それから今、先般の議会で御承認いただいて予算化していただきましたように、ドリル的な活用と。普通の場合はドリル的な活用が先にあったりするわけですが、大きく分けたらそういう3つの活用があるのかなというふうに思っております。

そういう中でスマイル学習でありますけれども、昨日も申しましたように非常に子どもたちが意欲的に取り組んでいるということがあります。したがって、学習にも集中度が高いということ。それから、非常に昨年度末を思い出していただくとおわかりだと思うんですが、納入までですね、非常に頑張って準備をして進めてきたところで初期的な不良というのは、きのう説明したとおり若干あったわけでありましてけれども、家庭におかれても非常にこう冷静に受けとめていただいて、子どもたちと一生の学びをつくっていただいたということで、今までの授業の準備の仕方等で若干違って来た面とかですね、あったかもわかりませんが、特別に大きな課題というのは思っておりません。特に子どもたちにおいては非常に意欲的な学びにつながったということで、これまでの状況を見る中でそういうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

1人1台用いることによって、いろんな子どもたちの潜在能力等も引き出せるかと思いません。

昔よく私が思っていたのはですね、パソコン教室。まだ平成19年とかですね18年ぐらいのころのパソコン教室を見るとですね、1人1台使えずですね、3人、4人で1台を使ったりする状況が見られておりました。そのころから見るとですね、一人一人がタブレットを使って学習をしていけるという状況は非常に進んだ取り組みで、非常に私も子どもたちの笑顔を見るのが非常に好ましく見ております。

それとですね、今家庭にも取り組んでいただいていると、一生懸命取り組んでいただいているということでしたけれども、やはり保護者の中にはですね、いろんな戸惑いや疑問や不安があると思うんですが、その辺はどう対処されてこられたのか。各学校での取り組みとかですね、その辺をお聞きいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今年度、全部の学校に初めて導入ということでしたらですね、私どももまた戸惑いがあっ

たかもわかりません。幸いなことに、23年度からですね、先導的に2校でもらっていた。そのノウハウというのが先生方にも非常に伝わっておりまして、何回か見たことがあるとかですね、あるいは子どもたちの触れる姿、そういうのも目にしておられる。そういうことで、非常にその点がよかったなという思いがいたしております。

そして当然、導入する時点で保護者の皆様の不安というのもアンケート調査等もさせてもらったわけでありまして、きのう申しましたように3%、その2校のタブレットの状況等を見まして、二、三%というのは不具合の可能性もあると判断してたわけですが、大体そういう状況の中で円滑にスタートできてるというふうに思っております。

また家庭で勉強するのにしても、タブレットばかりに埋没してしまうんじゃないかという不安も聞いていたわけですが、そういう面でも非常に短い五、六分程度のコンテンツ、動画を作成してもらって、2回、3回見直したにしても、およそゲームに熱中する時間とは桁違いに短い時間の視聴で学習できるという状況でありますので、今後またこのような方向で積み重ねていければというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

23年から2校で取り組まれてきたノウハウがあるということで、非常にですね、私も山内東小学校、武内小学校、公開授業のときに見学をさせていただきました。子どもたちは、どの小学校でも順応というかですね、子どもたちは早く覚えると。よく説明会でもですね、子どもたちはあまり——順応力があるからすぐ入ってこれるんだという声を聞きます。

今後保護者の中にも、そういうまだ疑問とか不安を持っておられる方があって、各学校でも結構ですので、今後さらに——進んでいくためには説明が私は必要だと思いますので、そういう説明会等の開催等を行っていただきたいというのとですね、もう一点、情報モラル教育についても、実際私も子どもから習わんぎわからんというごた面ですね、保護者の方にもそういう情報モラルの教育とかですね、そういうものが一緒にやっていけるような状況を考えていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

確かに子どもたちのほうが使い慣れるのは早いという状況がございます。今から進めば進むほどですね、本当に日進月歩で進んでますので、子どもたちのほうが使い慣れるというのは早いという状況がさらに出てこようかと思っております。したがって、学校での学習としての使い方はもう既に高校も入っているわけでもあります。成長に応じたタブレット等の扱い、情報との接し方等々については段階を追って指導していく必要が当然出てくると思っております。

それから情報モラルにつきましてもですね、これまでいろいろマスコミ等での報道もありますように、いろんな問題行動等につながっている状況も見えますので、今もやっておりますけれども、特に重視していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

さらにやっていただくということで、私も——この情報化社会、もうとにかく速いスピードで進んでおります。本当に重ねてのお願いでございます。よろしくお願いいたします。

また、先ほどちょっと答弁の中で言われよんさったんですけど、このタブレットを使った授業ですよ、5分から6分ぐらいの動画を予習をさせているということですけど、公開授業に行ったときにですね、私を感じたのというかですよ、行く前に思っていたことがですよ、タブレットを使った授業ということで四六時中タブレットがさわっているようなイメージがあったんですよ。見るまでですね。そういう中ですよ、ちょっと時間をずっととったりして、授業が始まって電源を入れる。そういうものをずっと計ったりしたことがあります。実際授業の中でですね、一番懸念されているのはタブレットをずっと使っているんじゃないかと、そういうイメージがあると思うんですよ。実際見たことない方はですね。私も見て初めてそういうことに気づいたんですが、始業から始まって実際タブレットを使う時間というのはですね、私短いと思います。短いというか、長く使えじゃなくてですね。実際使っているのは授業の中で数分とか単位によって違うでしょうけど、その中でですね、しっかり物を書いたり話し合いをしたりしている場面がありました。

そういう不安を取り除く説明もですよ、やっぱり必要じゃないかなと思いますけどいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

確かに、ずっと1時間中使っぱなしじゃないかというような御心配が始まる前ありまして、その後オープンデーを今年度ずっと各学校2回平均はしてもらおうということで、実際にもう見ていただいたほうが早いということでやっております。5月から小学校6校で7回ほど実施しているわけですが、今年度また9月以降も計画をしております。

それもですね、保護者の方だけじゃなくて県内外から既にもう700名ぐらいの方が参観に来ておられます。方法的な新鮮さ、それとタブレットの扱い方、そして実際の子どもの姿等を非常に参考にさせていただいているということであります。言葉で説明するのは非常に難しいわけで、議員がおっしゃったようにですね、実際に見ていただければというような思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

実際に見るということも、本当に私も見て初めてそういうことを感じましたので、見ることも大切だとわかっております。でもしかしですね、実際保護者の中に来れない方とか地域の方もいらっしゃるの、私も何回か、いつも使いよらんばいとかそういうことを話したことはあります。1回見に行ってんとかそういうことも言いますが、言葉での御説明のほうも重ねてお願いいたします。

スマイル学習については非常に注目をされている中で、学習効果というのはですね、結果としてはすぐにはあらわれないかもしれませんが、今後、我々もですね、私もしっかりこの武雄市の教育改革の一つであるタブレット学習、見守っていきたいと思います。

また来年度はですね、中学校にも導入予定となっておりますが、中学校では、中1ギャップ等の精神的な面とかですね、高校受験など繊細な時期でもありますので、今までの経験等、タブレット学習を行ってきた経験等あられると思いますけども、子どもたちへのかかわり等が損なわれないように十分な配慮をお願いしたいところですがいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

〔市長「そのとおりです、のひと言でよかよ」〕

○浦郷教育長〔登壇〕

ちょうど小学6年生がスマイル学習して、来年度は中学校に行くというような形で、そういう慣れていく子どもたちが中学校に進むというようなこともあります。また中学生ならではの対応も課題もあろうと思いますので、その辺を踏まえてですね、中学校への導入に準備したいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

スムーズな授業運営がなされるようお願いいたします。

最後になりますが、学校と家庭と地域の連携が重要視されるようになり各地域でもさまざまな取り組みがされている中、このたびはしっかりとした形で組織された官民一体型学校づくり地域協議会が設置されています。早いところでは7月の1日やったですかね、発足したということで、今後ですね、この協議会の中でさまざまな議論がされていくと思います。私も、地域の学校づくりに各地域が一体となって取り組むのは非常に重要なことだと思います。その可能性の中に、いろんな目的が——この協議会の目的があるかもしれませんが、いろんな取り組みが小さな地区地区じゃなく大きな校区としてですね、いろんな取り組みが

やっつけられるということについては、非常に進んだ取り組みじゃないかなと思っております。北方区においてもですね、サマースクールを平成20年から始めております。これも、私が当時PTAの会長をしているときに、区長さんにこの北方区で子どもたちのことで何かできんやろかという相談をしたときに、こういうことをやりましょうかということで、地域で取り組むために一生懸命頑張ってきたところでございます。それがですね、全体として取り組んでいけるということには、この協議会の中でいろんな議論がされ、議論が形として残っていくということについては非常に重要なことだと思っております。

そこで、これまでの流れというか市内校区の設置状況について、きのうおっしゃられましたけれども、今後ですね、その設置状況を踏まえて勉強会等あると思いますけれども、その点についてお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上教育部長

○溝上教育部長〔登壇〕

昨日、設置状況等については御説明申し上げまして、市内11校区のうちですすね、現在9校区、来週にはあと2校区ということで申し上げました。

その中で今後ですけれども、8月末にモデル校の武内小学校で青空教室ございました。それで10月にですね、さらに2回目の青空教室、それとあとモジュール授業、この公開授業がございます。ぜひそこを協議会の皆様、自分の目で見ていただいてまた理解を深めていただきたいと思っております。

それ以外には、モジュールの実際の学習を取り入れた福岡のほうでは予備校がございます。それについても視察を計画をしておりますので、そういうところをごらんいただいて御判断をお願いしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

公開授業が、8月末に青空教室がありました。10月に、また青空とモジュールとまた予備校への視察研修が今後行われるということですね。わかりました。

今後ですね、各地域でも、いろんな勉強会とか説明に来てくださいという要望があったりするかもしれません。その折には、柔軟な対応をお願いしたいと思っております。地域の方々、保護者を含めすべての方にですね、この官民一体型学校づくりの理解を深めていただくことを切にお願いを申し上げます。今後、この各地域で取り組まれることがですね、たくさんの方に御参加いただき、思い出に残り、自慢のできる学校づくりに取り組んでいくことを願い、池田大生の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

以上で7番池田議員の質問を終了させていただきます。